

飯能市とホッケーのつながり



飯能市のホッケー競技は、過去2回の国民体育大会の競技会場となったことを契機に、広く知られるようになりました

「ホッケーのまち飯能」の歴史

昭和37年 (1962)	埼玉県でホッケーを行っていたのは、慶應義塾志木高校のみ 浦和市（現さいたま市）在住の山崎清三郎氏（朝日新聞社）が埼玉県にホッケーを普及しようと親交のあった当時の飯能市長（4代）市川宗貞氏に要請。快諾され、飯能市とホッケーの歴史が始まった
昭和42年 (1967)	第22回国民体育大会のホッケー競技開催地になる（会場：飯能第一中学校校庭）
平成12年 (2000)	第74回全日本男子ホッケー選手権大会の開催地になる（会場：阿須ホッケー場）
平成16年 (2004)	アテネオリンピック女子日本代表として、飯能市のチームから加藤明美選手が選出される（HFC-HANNO所属） 第59回国民体育大会で2度目のホッケー競技開催地になる（会場：阿須ホッケー場・美杉台公園多目的グラウンド） 成年男子…準優勝 成年女子…優勝
平成17年 (2005)	第35回全日本中学生ホッケー選手権大会の開催地となり美杉台中学校女子ホッケー部が3位の成績を収める（会場：阿須ホッケー場）
平成20年 (2008)	全国高等学校総合体育大会ホッケー競技の開催地になる（会場：阿須ホッケー場・美杉台公園多目的グラウンド・駿河台大学ホッケー場） （男子71回・女子50回） 北京オリンピック女子日本代表として、飯能市のチームから加藤明美選手、筑井利江選手、岡村育子選手が選出される
平成24年 (2012)	ロンドンオリンピック女子日本代表として、飯能市のチームから加藤明美選手が選出される 「最年長オリンピック女子ホッケー選手」としてギネス認定 第86回全日本男子ホッケー選手権大会の開催地になる（会場：阿須ホッケー場）
平成25年 (2013)	市内公立中学校1年生において、ホッケー競技が体育科の必修となる（全生徒がホッケー競技を経験） 第87回全日本男子ホッケー選手権大会の開催地になる（会場：阿須ホッケー場）
平成28年 (2016)	第38回全国スポーツ少年団ホッケー交流大会の開催地になる（会場…阿須ホッケー場・駿河台大学ホッケー場） ◆フレンドリーグ…男子の部：はんのうホッケースポーツ少年団2位／女子の部：アゼリア飯能スポーツ少年団3位
令和3年 (2021)	第51回全日本中学生ホッケー選手権大会の開催地予定（会場：阿須ホッケー場 他）



飯能市内の阿須・美杉台・駿河台大学に3面の人工芝グラウンドが整備されたことにより、小学生～社会人チームの活動拠点ができ、飯能市内で全国大会が行われるようになり、「ホッケーのまち飯能」を全国へ広めるきっかけとなりました。また、飯能から数々の日本代表選手が選出されたことで、オリンピック大会など世界最高の舞台へ出場が現実となり、多くの子どもたちに夢を与えています。

飯能市は「ホッケーのまちづくり」を推進しています

- 小・中学校における普及事業を進めるため、ホッケー専門指導員（非常勤職員）を任用
- 平成25年度から市内中学1年生、体育科の必修化（中学校の全生徒がホッケー競技を経験）
- 希望する小学校とクラブチーム（飯能ジュニアホッケークラブ）に対し、巡回ホッケー教室、クラブ活動実施
- 平成27年度「はんのうホッケースポーツ少年団」設立
- ホッケー競技のPR活動（市HP・図書館と市民活動センターのホッケーブース・チラシ配布・イベント参加等）
- 全国大会の観戦機会等、充実を図るため、施設修繕や点検を実施
- 競技力向上への支援とし、競技団体と連携した普及事業や強化事業の実施
- 市内の小学校から高等学校において、ホッケーの専門指導ができる教員の確保
- 全国大会等の誘致と大会開催への支援



～市民スポーツであるホッケーの普及振興により、郷土愛を育み、将来の飯能を担う人づくりを進めます～